

氏名(本籍)	<sup>わたり</sup> 渡	<sup>ただし</sup> 正(北海道)
学位の種類	博士(学術)	
学位記番号	博乙第2435号	
学位授与年月日	平成21年3月25日	
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当	
審査研究科	人間総合科学研究科	
学位論文題目	車椅子バスケットボールの経験における身体の意味に関する研究	

主査	筑波大学准教授	教育学博士	清水 諭
副査	筑波大学教授	博士(教育学)	阿部 生雄
副査	筑波大学教授	博士(体育科学)	近藤 良享
副査	筑波大学教授	博士(心身障害学)	中田 英雄
副査	筑波大学講師	博士(文学)	清水 知子

### 論文の内容の要旨

本研究は、社会学的な相互作用論と制度論をふまえて、車椅子バスケットボールを実践する人々の経験と身体の意味をそのルールやゲーム、そして当事者の語りから解明することで、「障害」の意味を捉え直すことを目的としている。筆者は、日本における障害者スポーツのメディア表象を分析し、障害をもつ人々の具体的な経験と身体の意味が構築されるまさにその現実を捉える必要性を重視する。そして、車椅子バスケットボールのクラス分けのルールや、「物理的・固定的な幅」をもつ車椅子を有効活用したプレイの様態を分析しながら、プレイヤーへの参与観察を行った。ここからは、「クラス分け」による持ち点に規定されつつ、車椅子の特長を活かした戦術を実践することで、身体的な、あるいは社会的な「障害」、つまりインペアメントもディスアビリティも、車椅子バスケットボールのプレイを遂行するという文脈において、(その都度経験されたり達成されたりすることが分かった。彼らにとって「健常者/障害者」のカテゴリーが、決して固定的で実体的なものでないことを明らかにしたことは、「障害」「障害者」へのまなごしを捉え直すことにつながる。

### 審査の結果の要旨

審査委員会においては、「自然な身体」と「人工的な身体」の概念をふまえた「障害者スポーツ」と「近代スポーツ」の概念や関係性について、またその上で障害を持つ人々の身体の意味を問うことの意義について説明を求められた。本研究は、障害者の経験と身体の意味を彼らに寄り添い、彼らの言葉から捉えており、障害と障害者観を捉え直すものとして評価された。

よって、著者は博士(学術)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。